



～認知症について～

高齢者による交通事故が連日報道され、その中には認知症が原因と思われるものが多数存在していることは皆様もご存知かと思います。

現在、日本では7.1人に1人が75歳以上であると言われており、認知症の割合も2012年には高齢者の約7人に1人でしたが、2025年には約5人に1人となることが見込まれており、認知症そのものと共存する環境がより深くなることが予想されています。

【認知症とは？ 治療方法は？】

日本人に多い認知症は、アルツハイマー型と言われています。アルツハイマー型は、脳で作られたアミロイドβペプチドの分解、除去機能が老化により低下することで脳内に固まりを形成し毒性を持つことで神経を傷つけ神経細胞が死ぬことで発症します。この現象を認知症といいますが、急激に起こる事ではなく徐々に進行するため、正常時から発症するまでにグレースーン(物忘れはあるが生活に大きな影響がない期間)が存在します。この期間に生活習慣を変えることで発症を予防することが可能と言われています。発症すると、投薬やリハビリ等の治療で始め、症状を若干改善し進行を遅らせる効果はありますが、現時点では完治する方法はありませんので、発症前にリスクを知り対処することが必要です。

【検査できるの？】

以前のコラムでもご紹介いたしましたMRI検査や面談による質問形式の検査の他に、最近では血液を使用したMCIスクリーニング検査も登場しました。

MCIスクリーニング検査は、認知症の前段階である軽度認知障害(MCI)の兆候を早期に発見できる血液検査で、アルツハイマー病の原因物質であるアミロイドβペプチドを排除する機能を持つ3つのたんぱく質(アポリポタンパク質、トランスサイチン、補体タンパク質)を調べ、アミロイドβペプチドの蓄積を間接的に評価することで、軽度認知障害(MCI)のリスクを調べることができ、より手軽に検査をすることが出来るようになりました。